

めぐみイエス・キリスト教会

2021年11月21日(日)第三主日礼拝
週報「通算第584号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌203「ああイエス君」 p. 304

【交読文】 No.13詩篇第34篇 p. 888

【賛美Ⅱ】 新聖歌426「世には良き友も」 p. 686

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.18「聖なる方」

【聖書朗読】 使徒の働き13章26節～37節

【礼拝説教】 《パウロのメッセージそのⅡ》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

◎聖書箇所「使徒の働き13章26節～37節」(新約p. 260上段)

13:26「アブラハムの子孫である兄弟たち、ならびに、あなたがたのうちの神を恐れる方々。この救いの言葉は、私たちに送られたのです。

13:27 エルサレムに住む人々とその指導者たちは、このイエスを認めず、また安息日ごとに読まれる預言者たちの言葉を理解せず、イエスを罪に定めて、預言を成就させました。

13:28 そして、死に値する罪が何も見出せなかったのに、イエスを殺すことをピラトに求めたのです。

13:29 こうして、彼らはイエスについて書かれていることをすべて成し終えた後、イエスを木から降ろして、墓に納めました。

13:30 しかし、神はイエスを死者の中からよみがえらせました。

13:31 イエスは、ご自分と一緒にガリラヤからエルサレムに上った人たちに、何日にもわたって現われました。その人たちが今、この民に対してイエスの証人となっています。

13:32 私たちもあなたがたに、神が父祖たちに約束された福音を宣べ伝えていきます。

13:33 神はイエスをよみがえらせ、彼らの子孫である私たちにその約束を成就してくださいました。詩篇の第二篇に、『あなたは私の子。私が今日、あなたを生んだ』と書かれているとおりです。

13:34 そして、神がイエスを死者の中からよみがえらせて、もはや朽ちて滅びることがない方とされたことについては、こう言うておられました。『私はダビデへの確かで真実な約束を、あなたがたに与える。』

13:35 ですから、ほかの箇所でもこう言うておられます。『あなたは、あなたにある敬虔な者に滅びをお見せになりません。』

13:36 ダビデは、彼の生きた時代に神のみ心に仕えた後、死んで先祖たちの仲間に加えられ、朽ちて滅びることになりました。

13:37 しかし、神がよみがえらせた方は、朽ちて滅びることがありませんでした。」

●ポイント1. 「あなたは私の子」とは？

※詩篇2篇7節～8節「人知に勝る神の計画の詩篇から」(旧約p.934下段)

2:7「私は【主】の定めについて語ろう。主は私に言われた。『あなたは私の子。私が今日あなたを生んだ。』

2:8 私に求めよ。私は国々をあなたへのゆずりとして与える。地の果ての果てまであなたの所有として。』」

●ポイント2. 「ダビデへの確かで真実な約束」とは？

※イザヤ書55章3節「恵みへの招きのメッセージから」(旧約p.1261下段)

55:3 耳を傾け、私のところに出て来い。聞け。そうすれば、あなたがたは生きる。私はあなたがたと永遠の契約を結ぶ。それは、ダビデへの確かで真実な約束である。

●ポイント3. 「あなたにある敬虔な者に滅びを見せない」とは？

※詩篇16篇10節「ダビデのミクナム」から (旧約p.945下段)

16:10 あなたは私のたましいをよみに捨て置かずあなたにある敬虔な者に滅びをお見せにならないからです。

◎先週の礼拝メッセージの概要【パウロのメッセージそのⅠ】

《今週から、会堂におけるパウロのメッセージを三回に分けて学びます。

まず、バルナバとパウロの伝道方法は、主イエスが最初に成された方法と同じで、安息日にユダヤ人の会堂に入って、教える事でした。

通常、ユダヤ教の会堂における礼拝では、初めに律法が読まれ、次に、それに関連する預言書が読まれます。その後、説教者は、その時読まれた聖書のみ言葉から、奨励をするのが通例でした。そして、説教者は定められてあるか、その時になって、会堂の役員が指名したのです。

パウロのメッセージは、ステパノが行なった最高議会での証言が元で、ステパノは集まった人々に、神がモーセに約束された「もう一人の預言者」こそ、主イエス・キリストであると言う真理を導こうとしました。

さて、ピシディアのアンティオキアの会堂には、正統的ユダヤ人と多くの改宗者がおりました。実は、改宗者には、二つの立場があって、義の改宗者と呼ばれ、三つの儀式を受けてユダヤ教徒となった異邦人。そして、門の改宗者と呼ばれ、ユダヤ教の聖典を認め、会堂の集会を守り、安息日と食物についての戒規を守る異邦人のことで、彼らは「神を恐れる方々」と呼ばれていました。パウロは、彼らに向けて語っているのです。

始めにパウロは、イスラエルの歴史を短く説明し、ダビデ王を取り上げて、その子孫として生まれた主イエスを証しします。そして、次にバプテスマのヨハネについて語り、ヨハネが証した言葉を引用するのです。

『「その方は私の後から来られます。私には、その方の足の履き物のひもを解く値打ちもありません。」』と。

この証言からパウロは、バプテスマのヨハネを直接知っていることが分かります。ヨハネの福音書には、エルサレムから遣わされた者たちが、バプテスマのヨハネの所にやって来て事情徴収した場面が描かれています。この使者の中に、若きサウロがいたのです。すべての営みには時があります。サウロが主に出会った時があったように。私たちにも、それぞれにやはり時があるのです。しかし、必ず時が満ちる時はやって来ます。》

◎お知らせ

※第四主日礼拝は11月28日(日)午前10時から教会で行ないます。